



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和7年9月8日

長崎市立西北小学校

文責：校長 江原芳樹

R7年度 第5号

子供たちが学校に戻ってきました。校舎が生き返ったような印象です。やはり、学校には子供たちの姿が似合います。少したくましくなって戻ってきた子供たちと2学期の西北小学校がスタートしました。

さて、朝から双倉橋で立哨をしていると、自分の影が長くなったことに気づきます。7月は30分ほど朝日を受けていましたが、今は受けることもありません。陽の射し方にも変化があり、確実に季節が進んでいることが分かります。今年は特に暑さが長引く予報ですが、秋に向かい季節は少しずつ動いているようです。

1年間で一番長い2学期です。学校生活を通して、一人ひとりの子供たちが成長できるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたいと考えています。

自分の学習の状況への意識を高めたい

西北小学校は、昨年度から通知表2回制となり、前期の通知表を渡す日を「学習状況確認日」と位置付けています。今年は、10月10日（金）の予定です。

子供たちがこれから生きる社会は「予測困難な社会」と言われます。そうした社会の中で自己実現を図るためには、自己理解は不可欠です。今の自分の状況を客観的に把握し、次の一步をどう踏み出すのか、自分づくりの構想につなげていく力が求められます。

10月10日の「学習状況確認日」は、学期末と異なり、長期休業中の生活面指導等がありません。通知表をもとに、担任が一人ひとりの子供たちと学習の取組やその成果等についてしっかりと話をする時間を確保できます。こうした時間を確保することで、子供たちにとっても、自分の学習の取組がどのような成果として通知表に表れているのか、後期の学習に見通しはどうするのかを考える機会となります。

今年は、家庭学習において自主学習（自分で必要な学習内容を考え選択し取り組む学習）に取り組む子供たちがとても多くなっています。それに伴い、自分の学習への取組に関心が高くなっている様子が伺えます。

今の自分を知ることで、次の自分づくりにつながります。どうぞ、ご家庭においても学習への取組状況などを話題にして、子供の意識を高めていただきたいと思います。



今年から小体会が変わります！

昨年度、新聞等でも報道されたことで、ご存じの方も多いと思いますが、長崎市内の全ての6年生が参加する「長崎市小学校体育大会（通称：小体会）」が令和7年度から大きく変わります。

障害等に関わらず全ての子供が参加できること、気候等の影響を受けず、計画通りの日程で実施できることを重視し、種目変更が行われました。全ての種目が屋内競技となっています。新しい競技は次の通りです。機会があれば、ぜひ体験してみてください。

【長崎市小学校体育大会種目】

①ターゲットボッチャ

バドミントンコート1面を使い、コート前方にある得点シートを狙って投球し、4ラウンドのチーム合計得点で勝敗を競います。チームの作戦が勝負を分けます。

②球入れ

競技用のかごを使い、決められた数の球を30秒間×2セットでかごに入った戸数の合計で競います。全ての球を入れる練習に取り組みます。

③プレルボール

バドミントンコート1面を使い、ネット型のボール競技です。プレーヤーは4名で行い、必ず全員がボールに触れて相手コートにボールを返します。

④フラッグフットボール

バスケットコート1面を使い、タグをつけてプレーします。ラグビーのようにボールを運びタッチダウンすると得点になります。

⑤フットホッケー

バスケットコート1面を使い、専用のパックをボールに見立てたサッカーに似たゲームです。1ラウンド4分を4ラウンド行います。

《校長散歩道 No.24》

私事ですが、今年で還暦を迎え、教職としての終活を意識するようになりました。定年が延長されているので、今すぐ教職を退くということではありませんが、「何ができていたのだろうか？」と過去を振り返ることが多くなったと感じています。

過去を振り返りながら、「過去も未来も変えられる」というお話を教えていただいたことを思い返していました。

「他人と過去は変えられない。変えられるのは、自分と未来だけ」という言葉はみなさんも聞いたことがあるでしょう。一方で「過去は変えられる。今を生きる自分次第だ」という言葉もあります。前者に対抗して言っているのではありません。「過去の意味付け」を変えることができるという話です。その根拠としてこんな寓話を教えてもらいました。

両親から虐待を受け続けた双子が成長しました。一人は荒れた生活をし、自分自身も我が子を虐待する大人になっていました。「これ以外、どんな人生があるというんだ。」と。

もう一人は、苦勞しながらも学び、事業を立ち上げ成功し、子供を守る施設を支援する大人になっていました。こちらも同じように「これ以外、どんな人生があるというんだ。」と。

辛い体験は同様でも、捉え方によって「過去」の意味付けは異なります。前者は過去の体験のせいにして、今の荒れた生活を選んだのです。後者は過去の体験を糧に自分はそうならない道を選んだのです。どんなに辛く大変な体験をしても、それを「マイナス」と捉えるか、「プラス」と捉えるかで、過去の意味は変わってくるのです。「今」をどう生きたいのか、それを決めるのは今の自分です。過去の出来事ではありません。

価値観が多様化し、生きづらさが顕著になった現代ですが、私たちは今を生きています。過去の自分とどう向き合うのか、過去の自分から何を学ぶのか、これからの生き方に表れるのだと気を引き締めた夏休みでした。